

単元名 「自ら考えた『しぐさ』を発揮しよう」

1 単元について

本単元の目標

- 本単元では、よりよい学校生活を送るために、日々の生活についての問題点・改善点を振り返る取組を通して、将来自分たちが身につけるべき「生活しぐさ」としてまとめ、それを発信するために知識や技能を身に付け、主体的・協働的に取り組む態度を養う。

教材観

- 両城中学校では、全学年で「しぐさ」をキーワードに総合的な学習の時間に取り組む。1年生は「生活しぐさ」、2年生は「仕事しぐさ」、3年生は「街づくりしぐさ」を「両城しぐさ」として捉え、その探究に取り組む。

1年生の「生活しぐさ」の取組では、自分たちの可能性を探り、自分の良さや自分たちの価値について気づかせ、学校生活や学習体験など様々な場面にふさわしい「しぐさ」を考え、よりよい生活を送るための「生活しぐさ」として発信する活動に取り組む。

本単元では、「しぐさ」とは何かを知識として身に付け、自分たちの生活を振り返ることで問題点を出し合い、その課題解決に向けて具体的な行動を、協働的な活動を通して「生活しぐさ」としてまとめる。

さらに、多くの仲間や小学生たちに効果的に発信するために、要点を押さえ、分かりやすい声の大きさや速さで発表したり、文字や形を理解しやすいよう工夫したりして発表・展示を行うことで、表現力を高めることができる。

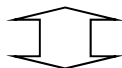
2年生の「仕事しぐさ」の取組に接続することを意識しながら、学校や地域の一員として、よりよく生活することを自覚させることをねらいとする。

生徒観

- 総合的な学習の時間についてアンケートを行ったところ、「自分の課題を最後までやり抜くことができる」の肯定的な評価をする生徒は、89.4%であった。また、「グループの課題解決に向けて、仲間と協力し最後までやり抜くことができる」という項目でも85.1%であった。

一方で「集めた情報を整理・分析することができる」が68.1%であり、「学習したことをまとめ、わかりやすく発表することができる」は、73.9%であった。

このことから、情報・分析の能力や学習したことをまとめて発表する能力に課題があると考えられる。



指導観

- 本単元では、導入に当たって「しぐさ」から気づく自分たちの可能性を探り、自分や自分たちの良さや価値に気づかせ、それをどう表現したらよいか考えさせる。

グループ活動など協働的な学習を通して、自分の考えを広げ、それぞれの意見を比較や関連付けしながら整理する。そしてまとめたものを「生活しぐさカレンダー」や「ピクトグラム」の方法で、文化活動発表会にて学校全体で発表・展示する。また、小学校及び地域の施設に配付することで自分たちの考えた「生活しぐさ」を発信する活動を指導していく。これらの学習活動を通して、日常生活の中から課題を見つけ解決する方法を考えるとともに、進んで教え合ったり、学び合ったりしようとする主体性を育みたい。

2 本単元で育てようとする資質・能力

資質・能力	(1) 知識・技能	(2) 思考力・判断力・表現力	(3) 学びに向かう力・人間性等
	知識・情報	思考力・判断力・表現力	主体性・積極性
	「生活しぐさ」について課題を追究したり，その解決のための方法や発信の方法を考えたりする活動を通して，見通しをもって課題を追究していくことができる。	「生活しぐさ」について，調べたことや考えたことを整理し，まとめ，分かりやすく伝えることができる。	「生活しぐさ」をまとめ，発信する学習に主体的・協働的に取り組むとともに，自ら積極的にその活動に関わっていかうとする。
評価規準	「生活しぐさ」について課題を考え，「生活しぐさカレンダー」や「ピクトグラム」を作る活動を通して，見通しをもって課題を追求していく知識や技能を身に付けている。	「生活しぐさ」について，調べたことや考えたことを整理してまとめ，分かりやすく伝えたり表現したりする力を身に付けている。	「生活しぐさ」をまとめ，発信する学習に主体的・協働的に取り組むとともに，自ら積極的にその活動に関わっていかうとする態度を身に付けている。

3 単元イメージ

まとめ・表現

「だれが見ても分かるような簡単な絵や、はっきりとした色で描くように工夫しました。」「みんなに伝わりやすいよう、難しい言葉を使わないようにして発表できました。」

三次（16時間）

自分たちで考えた「生活しぐさ」をピクトグラムで表現しよう。

課題設定（三次）

「生活しぐさ」をピクトグラムで表現しよう。

まとめ・表現

「クラスの中に、一人もひとりぼっちを作らないという思いを込めて、この月のカレンダーを作りました。」

二次（12時間）

自分たちの「しぐさ」から自分たちの「生活しぐさ」を考えて、カレンダーを作成しよう。

課題設定（二次）

「生活しぐさカレンダー」を作成しよう。

まとめ・表現

「班で一番高めたいしぐさと、改善したいしぐさも確認することができました。これからは『格好悪いしぐさ』をなくしていきたいです。」

一次（2時間）

「しぐさ」から気づく自分たちの可能性をさぐり、自分のよさを確認しよう。

課題設定（一次）

自分のよさや可能性を知ろう。

4 指導計画 (全30時間)

次	月	主な学習活動	時数	探究の過程	評価基準	教科等の関連
一次	5	○ 『自分を知る』「しぐさ」から自分たちの可能性を知る。	1	課題の設定	「しぐさ」について理解し、自分たちの可能性に気づくことができる。 (1)(ワークシート)	特別活動「生活を見つめて」 特別の教科道徳「人のフリみて」
		課題設定 自分のよさや可能性を知ろう。		情報の収集	自分たちの生活を振り返って、よりよく生活するために、進んで考えようとしている。 (3)(ワークシート)	国語科「質問をする」
		○ 自分たちがしている「格好いいしぐさ」と「格好悪いしぐさ」を表にまとめる。	1	整理・分析	情報を交流する中で、「格好いいしぐさ」と「格好悪いしぐさ」を表にまとめることができる。 (2)(ワークシート)	特別の教科道徳「むかで競走」
二次	6	○ 自分たちが一番高めていきたい「しぐさ」を「両中しぐさ」としてまとめる。	2	課題の設定 整理・分析	自分たちの行動を振り返って、「格好いいしぐさ」と「格好悪いしぐさ」について話し合い、理由を挙げて比較分類している。 (2)(ワークシート)	特別活動「学級をよりよくするために」
		課題設定 「生活しぐさカレンダー」を作成しよう。		まとめ・表現	進んで、ポスターを作成している。 (3)(行動観察)	
		○ 「生活しぐさ」をポスターとしてまとめる。	3			
		○ 各自が作成したポスターを班ごとに提示し合い、カレンダー作りの計画を立て	3	課題の設定	ポスターの効果等を話し合い、来年度のカレンダー作成に	美術科「色ってなんだろう」

		る。			について考えている。 (1) (行動観察)	
	7	○ グループごとにカレンダーのイメージ図を作成し、説明文などについて内容を練り直す。	3	整理・分析	アピールしたい「生活しぐさ」が効果的に伝わるように、考えを出し合うことができる。 (2) (行動観察)	
	8	○ クラスで「生活しぐさカレンダー」の発表会を実施し、相互評価を行う。	1	まとめ・表現	「生活しぐさカレンダー」により自分たちの課題に気づき、より良い「生活しぐさ」を実践していこうとする意欲を持つことができる。 (3) (ワークシート)	
三 次	9	○ もっとたくさんの人に知ってもらい、より「生活しぐさ」が伝わるようにするためにはどうすればよいかを話し合う。 課題設定 「生活しぐさ」をピクトグラムで表現しよう。	1	課題の設定	より良い方法を出し合い、比較したり分類したりしながら、理由を明確にして考えることができる。 (2) (ワークシート)	国語科「根拠を明確にして書こう」
		○ ピクトグラムについて知る。	1	情報の収集	「生活しぐさ」をアピールするために、主体的に情報を収集している。 (3) (ワークシート)	
		○ 「生活しぐさ」をピクトグラムでどう表現するか考える。(本時 1/2)	2	整理・分析	「生活しぐさ」をピクトグラムで表現するために、より分かりやすい表現方法を探究している。 (2) (ワークシート)	

		○ 「生活しぐさ」を表現したピクトグラムを作成する。	5	まとめ・表現		美術科「イラストで伝えよう」
10		○ 文化活動発表会に向けて発表練習を行う。	4	まとめ・表現	より分かりやすく伝わるように発表の表現方法を探究しながら、伝え方を工夫している。 (2) (行動観察)	国語科「順序立てて説明する」
		○ 文化活動発表会で「生活しぐさ」をピクトグラムで表現し、発表する。	2	まとめ・表現	より伝わるように発表の表現方法を探究しながら、伝え方を工夫している。 (2) (行動観察)	国語科「具体例を挙げて伝えよう」
		○ 「生活しぐさ」の発表について振り返りを行う。	1	整理・分析	ピクトグラムによる「生活しぐさ」の表現の効果について理解している。 (3) (ワークシート)	特別活動「文化活動発表会の取組」

5 本時の目標

「もっとたくさんの人に『生活しぐさ』を知ってもらい、より『生活しぐさ』に込めた思いが伝わるようにするためにはどうすればよいか。」という課題解決のために、ピクトグラムについて話し合い、より分かりやすい表現方法について探究し、工夫することができる。

6 本時の評価規準

	判断基準
Ⅲ	「生活しぐさ」をピクトグラムで表現するために、より分かりやすい表現方法を探究している。
Ⅱ	「生活しぐさ」をピクトグラムで表現するために、表現方法を探究している。
Ⅰ	「生活しぐさ」をピクトグラムで表現するために、表現方法を探究しようとしていない。

7 本時の展開

過程	学習活動	○指導上の留意点 ☆自己肯定感を高めるための手立て	評価規準
つかむ	1 前時の振り返りから本時のめあてを確認する。 【課題の設定】	○ 前時までの活動を振り返り、本時のめあてを立てる。	
	めあて 「生活しぐさ」をピクトグラムでどう表現するか考えよう。		
		○ これからの学習の流れとして、次のことを確認する。 ① 6班にグループ分けし、各班で1つの「生活しぐさ」を担当し、ピクトグラムに表現すること（本時はこの最初の内容である。） ② 各自が作成したピクトグラムから1つを選び、それをベースにグループ内で改良を検討し、各班で最終案を1つ作成すること	
考える	2 担当する「生活しぐさ」のピクトグラムについて、図案化の方向性をグループ内で検討する。	○ ピクトグラムの特徴や工夫について、前時に確認した次の4つの視点に沿って、図案化の方向性の検討を行うように指導する。〔図案化の4つの視点〕 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px 0;"> ①色 ②形 ③デザイン(込めた意味) ④その他 </div> ○ ここでは、実際にすぐに図案化するのではなく、まずは図案化の方向性について、グループ内で共有することを目的とさせる。	
	3 各グループの検討内容について、全体で交流する。 【情報の収集】	○ 図案化の4つの視点に沿って、検討内容の発表をさせる。 ○ 良かったと感じた点だけではなく、自分たちのグループにはなかった視点やアイデアにも着目し、他のグループの発表を聞くよう指導する。 ☆ 肯定的評価を加えながら各班の発表ごとに、他の生徒から良かったと感じた点について発表させる。	
	4 図案化の方向性をグループ	○ 担当する「生活しぐさ」について、どの	「生活しぐさ」を

	<p>内でまとめる。</p> <p>【整理・分析】</p> <p>5 図案化の方向性を踏まえ、各自でピクトグラムを考える。</p> <p>【まとめ・表現】</p>	<p>ような意味や思いを大切にしたいかを、改めてグループ内で整理・確認させた上で、図案化の方向性をグループ内で共有させる。</p> <p>○ 本時は試作段階であり、次時以降に完成度を高めることを伝える。</p>	<p>ピクトグラムで表現するために、より分かりやすい表現方法を探究している。</p> <p>(2) (ワークシート)</p>
まとめる	<p>6 学習の振り返りをする。</p>		
	<p>振り返り (例) 「生活しぐさ」をピクトグラムで表現するために、ポイントを理解して、より分かりやすくなるような工夫をして、図案を考えたい。</p>		

8 成果と課題

学校や地域における自分たちの行動や振る舞いについて振り返り、その中で課題を見つけ、よりよい行動につなげ、解決していくために本単元を設定した。

「集めた情報を整理・分析することができる」は事前では68.1%であったが、取組後は87.2%となった。また、「学習したことをまとめ、わかりやすく発表することができる」は、事前は73.9%であったが取組後は、95.7%となった。

「問題を解決するために、情報を集めたり、どのように伝えるかなどを、自分で決めて率先して行動する力が付いたと思う。」「話し合うときに、皆の意見を言ったり、まとめたりするのがスムーズにできるようになったり、皆が言わないときは、自分から意見が言えた。」「班の人と協力して発表の文章を考えたり、どれが一番わかりやすいかなどについて考えることができました。」などの記述からも、課題であった情報・分析の能力や学習したことをまとめて発表する能力に変容が見られたと考えられる。

さらに、自分たちで考えた「生活しぐさ」を「生活しぐさカレンダー」として作成し、中学校や小学校その他の地域の施設に配付できるよう準備した。

また、「生活しぐさカレンダー」の形でまとめた「生活しぐさ」をより多くの人に分かりやすく、しかも効果的な方法で発信することについて探究していくことが、次の「生活しぐさ」をピクトグラムとしてデザインし、発表する活動へとつながった。

その結果、「自ら目標を持ち、主体的に挑戦したり、探究したりすることができる」という項目の肯定的な回答が、取組前の78.7%が、文化活動発表会後では93.6%となった。

具体的には「生活の中で、解決するべきことを見つけられた。」「自分は積極的ではなかったけれど、積極的に物事に取り組むようになった。」「挑戦してみようという力がつき、それをやり抜く力がさらに付いたと思います。」などの記述が見られた。

以上のことから、この「生活しぐさ」の単元学習を通して、日常生活の中から課題を見つけ、その課題を解決する方法を考えるようになり、進んで教え合ったり、学び合ったりする活動を通して、主

体性を育むことができ、目指す資質・能力である「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性」の高まりが見られたと考えられる。

これからの課題としては、第2学年の「仕事しぐさ」の学習につなげていくために、将来の夢を抱き、日常生活から地域・社会の課題に目を向けさせること、そして、望ましい生き方について、主体的に深く考える態度を養う取組が必要であると考えられる。

「生活しぐさカレンダー」

「生活しぐさ」ピクトグラム

文化活動発表会「生活しぐさ」発表会

授業が始まる二分钟前に座ろうしくぐさ
時間に余裕を持って、行動してみよう
12月



「生活しぐさ」の大切さ、姿勢の重要性、健康への影響、学習への効果、社会生活での重要性、などについて、児童が考えた内容をここに記入する。

日	月	火	水	木	金	土
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		



『何を清掃 』しぐさ デザインの自由と体性について
 そびえている人が 静かによろこんでいる顔
 (深う)はそびえ中を意味して(ては静かにこい)
 う意味

